

通信小海

民と国と



牧師 水草修治

「意外でした。日本では凶悪犯罪は増えているとばかり思い込んでいました。実は、むしろ半分になっているんですね。」「前号を「くらんになった方の感想である。」

毎日のように「親が子を橋から落としました」「高校生が親を刺殺しました」「中学生が小学生を・・・などというニュースを聞かされていれば、「いったいこの国はどうなってしまったのだらう、昔は良かった」という印象を持ってしまふ。しかし、「こういつ事件がニュースになるといふことは、実は、そういつ事件が珍しいからである。毎日、世界では二万四千余の人たちが飢餓で死んでいるがニュースにならない、珍しくない

今月の御言葉

「神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」「創世記一章二七節

からである。

警戒すべきは、耳をそばだてさせるようなニュースを利用して、国民をだます政治家である。一昨 year 長崎県佐世保で小学六年生の女子児童が同級生に殺害された事件があった。このとき、安倍晋三氏は、「大変残念な事件があった。大切なのは教育だ。子どもたちに命の大切さを教え、この国、この郷土のすばらしさを教えてゆくことが大切だ」と述べた。そのうえで教育基本法の改正の必要を強調し「た朝日新聞 四年六月二日。」

ここにはウソがある。この加害者の児童は学校で「いのちの大切さ」を習わなかったのだらうか。教育基本法のどこに「命を粗末にせよ」と書いてあるのだらうか。教育基本法第一条には「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身とともに

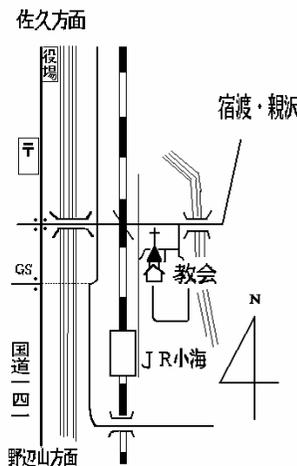
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

千三八四一一二 二六七九二四七七六

カンパ宛先〒振替005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

健康な国民の育成を期して行われなければならぬ。」とあるように、命を大切にせよと明白に教えている。

逆に、教育基本法改正を唱える政治家たちが理想とする教育勅語は、命について何を教えていたか？「一旦緩急あれば義勇公に奉じ以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし」つまり、戦争になったら、国体のために人を殺し自分は死ねと教えていた。また軍人勅諭は「死は鴻毛よりも軽しと覚悟せよ」と教えていた。教育基本法改正論者が理想とする戦前の教育方針は、人命は鳥の羽よりも軽いと教えていたのである。実際、その成果は先の戦争でのアジア二千万人の死と、日本国民三百万の死であった。そして今、彼らが目指す教育基本法改変のねらいは「お国のために命を投げ出しても構わない日本人を生み出す・・・これに尽きる。」(西村眞吾 一 四年二月二十六日朝日新聞)ということである。

聖書は、国家とは社会秩序を維持し富の不均衡を是正するために立てられた「神のしもべ」だと教える。国のために民がいるのではない。民のために、国は存在するの

である。

福音指圧教室

冷えてきました。腰やひざがいたみませんか。肩はどうでしょう。指圧で直しあいこしましょう。

九月二四日(日)午後2時

持ち物バスタオル、タオル、くつした



海尻井出博彦さんち

で家庭集会

九月七日(木)、二十八日(木)夜七時半から九時、聖書を読む会をしています。ご一報くださってお越しくください。 **96 2534**

南相木でも家庭集会

- * 十四日(木)夜七時半から九時
- * 日向中島悦子さん宅です。
- * 家庭集会には牧師夫婦がかけ、近所の人と聖書を読んだり賛美歌を歌ったりします。どなたでも気軽にどうぞ。

じゃがいも感謝

先に、野宿者たちのじゃがいも全滅という記事を読んでくださった小海杉尾のIさんがご自分の畑のじゃがいもを提供してくださいました。感謝します！

山谷農場事務局(藤田 寛)小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 二号室毎週金曜・土曜はおります。電話090・1436・6334

ﾌｻｸｽ042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパニ振替 一四 四五三七九六

人の尊厳とは



高校生が母親を殺したとか、母親が幼子を殺したとか、暗然とさせられるニュースを毎日のように聞かされる。また、世界あちこちの戦地では、人が虫けら同然に毎日何十人、何百人と殺されている。

もう十年近く前になるだろうか、日本のあちこちで「十七歳」による殺人事件が立て続けに起こったことがある。そのとき、あるテレビのスタジオに高校生が集められて座談会が開かれた。高校生の男女八名ほどだったと記憶する。しばらくして語り終えると、十七歳たちが、そこにいた中年・壮年の評論家たちに向かって質問をした。

「なぜ人を殺してはいけないんですか？」
評論家たちはギョッとして顔を見合わせて、とにかくなんとか答えようとするのだが、どの答えも、しどろもどろだった。

あなたが子どもから「なぜ人殺しはいけ

ないの？」と質問されたら、どのように答えるだろうか？ 「殺す」という極端なことでも、人を傷つけたり、人をだましたり、人を軽蔑したりしてはいけない理由とはなんだろうか。人間をそのように扱ってはいけない理由はなんだろうか。言い換えれば、人間一人一人が尊ばなければならない理由とはなんだろうか。

もし、学校で習うように、あるいはNHKの科学番組がいうように、人間が単に進化の産物にすぎないのだとしたら、人間であるからといって、誰でも尊ばなければならない理由はないことになるだろう。

強者が弱者を食い物にし、強者の子孫のみがはびこるといふ生き方こそが、「弱肉強食」「適者生存」といった進化説にかなった生き方であるからだ。老人、病弱者、障害のある者などは「不適者」であり、「弱肉」であるから、生きる資格なしというのが、進化的な人生観である。そういう教育を受けてきた、少しものを考える高校生たちが、「なぜ人を殺してはいけないの？」と問いかけるのは当然なのかもしれない。

ところが、創世記には次のように書かれて

いる。

「神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」(一章二七節)
人間は男も女も、みな聖なる神のかたちに創造されている。それゆえに、人間一人一人は尊い存在なのである。だから、人を呪ったり、侮辱したり、殺したり、虐待したりしてはならないのである。神のかたちとして造られた隣人を虐待することは、聖なる神を軽んじることである。神は、そういう者をただではすまされない。

マザー・テレサは、インドの路傍で、八エにたかられながら死につつある人々のうちに神の御子キリストを見たという。キリストを見たので、彼女は那些人々が尊厳ある死を迎えることができるように、奉仕をしないではいられなかったのである。

「まことにあなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」マタイ二十五四十

イノシシ猟のついでにネギを



「じゃあ、かあちゃん。猪熊山に出かけてくるよ。シシ鍋の用意をして待ってる。」と父ちゃんは、猟に出かけます。すると、母ちゃんはうしろから「行ってらっしゃい。猪熊山に行くなら、ついでに山の畑でネギを少しばかり抜いてきてくれ。」と声をかけます。「わかったよ。」と父ちゃん。

山にはいった父ちゃんは、首尾よく大イノシシを見つけて追いかけてまわして、ズドンと一発でしとめました。仲間とイノシシを山分けして、父ちゃんは意気揚揚として帰ってきます。家に着くと、胸を張って「おい。帰ったぞ。」と一言。すると出てきた母ちゃんは「あら？ネギはどうしたの？」父ちゃんは「あ・・・。」とすっかり忘れていたことを思い出します。「父ちゃん。また忘れたの。」と母ちゃんに言われ、父ちゃんはむすっと

して心につぶやきます。「俺はいのちがけでイノシシ追っかけてたんだ。それをご苦労様もなく、「また忘れた」とはなんだ！」

こういうことが度重なると、母ちゃんは「まったく、あの人はあたしの言うことなんか何も聞いてないんだから。」と思い、父ちゃんは「あいつは感謝を知らない。」と、お互いに非難するようになりがちです。

知り合いのご婦人は、夫があまりに自分がついでに頼んだことを忘れるので、夫に脳外科を受診してもらったそうです。二人で脳外科の医者に症状を話すと、医者は「そうですか。私もいつも家内に同じように言われるんですよ。」とおっしゃったとのこと。それでも念のため精密検査をしたけれど、異常なしでした。

夫婦のこの種のすれちがいは、男脳と女脳のちがいから来ているというのが正解のようです。男脳はハンター脳で、あの獲物を捕らえると決めたら、他のすべてのことは忘れて、獲物に集中していくという目的達成思考の脳です。だから、「ついでに」何かを同時にすることが苦手で、イノシシを追いかけ始めるとネギのことは忘れてしまふ。

他方、男がまねできない女の能力というのは、同時にいくつものことを並行してすることができるといふことです。鍋に火をかけ、まな板に向かいながら、洗濯機を回し、ラジオ番組を聞き、かつ、子どもの登校の準備をするなどということは女には朝飯前です。女にとつては、いくつものことを「ついでに」することはあたりまえです。

ですから、奥さんたちは、自分が頼んだことを夫が忘れてくるのが理解できません。理解できないので、「夫は不誠実だ」とか、「愛がない」とか思い込んでしまいがちです。でも、それは不誠実とかいうことではなくて、単に能力がないということなのです。

神様は、男と女をお造りになって、男と女にそれぞれ異なる務めと、それぞれにふさわしい能力を授けてくださいました。ですから、お互いの違いを知り、認め合い、受け入れあつて、互いの欠けを補うことが夫婦生活の秘訣です。

「人がひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」創世記一章十八節